保健体育科学習指導案

日　時　令和７年11月６日（木）
　　第５校時　13:40～14:30
学校名
対　象　第３学年　組　　名
会　場　校庭
授業者

１　単元名

球技　ゴール型「サッカー」

２　単元の目標

知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。また、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　サッカーで用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントを理解している。(知識) ②　味方が操作しやすいパスを送ることができる。(技能) ③　パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。(技能)	①　自己や仲間、チームの技術的な課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ②　これまでの球技の学習を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を工夫している。	①　作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ②　互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ③　健康・安全を確保している。

４　指導観

(1) 単元観

本単元は、次に示す中学校学習指導要領（平成29年告示）第２章　第７節　第２ 体育分野第３学年の２ 内容、(1)ア、(2)及び(3)の内容を受けて設定した。

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。

ア　ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。

(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。

また、次に示す中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編（平成 29 年 7 月）を踏まえ、生徒に味わわせたいサッカーの特性を次のように捉えた。

ア　機能的特性

ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作りだしたりしてシュートを放ち、一定時間内に相手チームより多く得点することを競い合うことに、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

イ　構造的特性

基本的な技能（ボール操作）、集団的な技能（戦術や作戦）を用いて勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間が考えたことを他者に伝えることで、学習の効果が高められる運動である。

ウ　効果的特性

相手との空間の奪い合いやゴール前での攻防により、主に巧緻性・敏捷性・スピード・全身持久力を中心とした体力が高まることが期待される。また、グループ活動を通して、互いに助け合ったり、教え合ったりしながらともに成長することを実感できる運動である。

(2) 生徒観

ア　教師から見た実態

これまでの球技に関する学習では、他の単元、運動特性との関連を図り、主に自他の違いを理解し認め合いながら、ともに運動することを楽しむことができるよう取り組んできた。

中でも、ゴール型の授業では、既習状況を基に、思考し、判断し、表現する活動を通して、運動の見方・考え方を育むことができるよう取り組んできた。また、互いを尊重し、協力しながら学習を進めていく過程を通じ、ゴール型の楽しさや喜びを味わい、共に成長していくことができるような学習とした。

体育分野の学習では、生徒一人一人が新たな知識及び技能を身に付けるために、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。また、男女の性別を問わず仲がよく、誰とでもコミュニケーションをとることのできる生徒が多い。一方で、運動技能や得意不得意の意識の差が顕著に見られる。

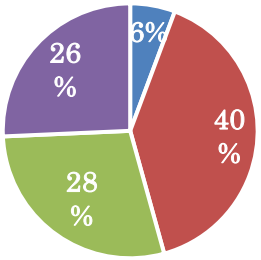
本単元では、小学校及び中学校第１・２学年で学習した球技（ゴール型）の単元を踏まえ、基本的な技能を活用し、空間を活かしたゲームが展開できるよう指導していく。

イ　実態調査結果及び考察

(ｱ) 調査理由：学び続ける生徒を育成するために必要な手だてを把握するため

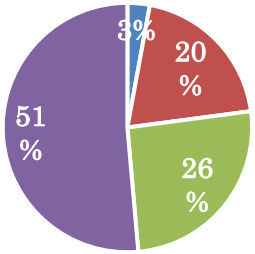
(ｲ) 調査方法：クラウド型教育プラットフォーム
(ｳ) 調査対象：第３学年Ｂ組　35 人（３人欠席）
(ｴ) 実 施 日：令和７年９月 25 日（木）
(ｵ) 調査結果（単位：人）

設問①　これまでのサッカー経験で、一番近いものを教えてください。



○かなり経験している（部活動・外部クラブに所属していた）：９人（26%）
○よく経験している（昼休み・放課後などで親しんでいる）：10 人（28%）
○経験したことはある（小学校の授業で触れた程度）：14 人（40%）
○全くやったことがない：２人（６%）

設問②　サッカーの技術（パス・ドリブル・シュート等）について、一番近いと思うものを教えてください（個人評価）。

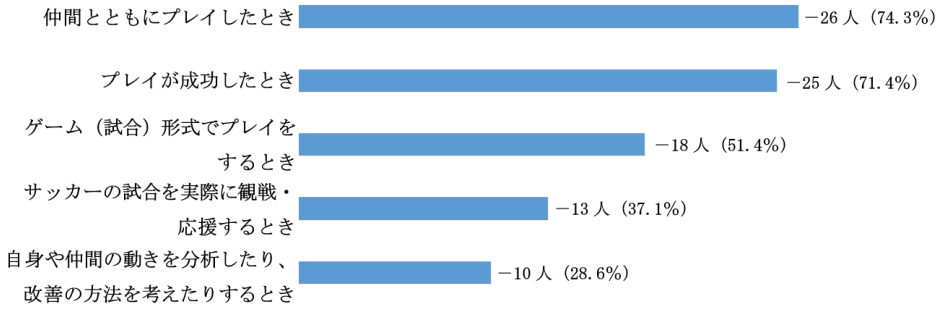


○得意だと思う：１人（３%）
○どちらかといえば、得意だと思う：７人（20%）
○どちらかといえば、得意ではないと思う：９人（26%）
○得意ではないと思う：18 人（51%）

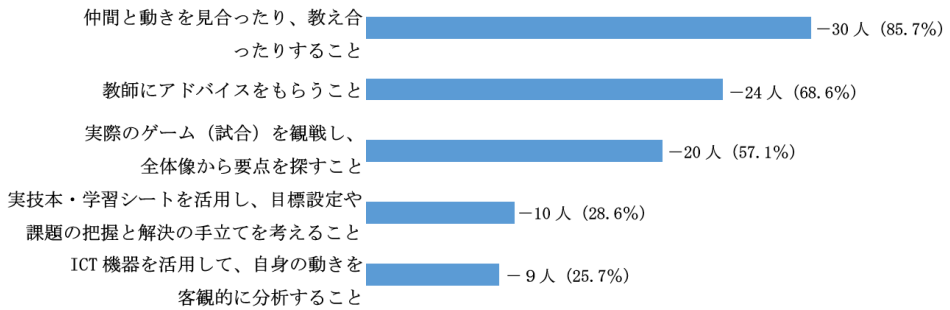
設問③　　サッカーを難しいと感じたり、不安に思ったりするときはどんなときですか。

○　ボールが思うような方向にいかないとき。（技術：25 人）
○　パスを受け取ったものの、その後につながるプレイが思いつかなかったとき。（思考：３人）
○　パスが来て、自分がミスしてしまったとき。（責任：３人）
○　足元しか見られないから、接触による怪我が怖い。（安全：３人）
注１．（　）内は記述カテゴリーの分類人数を指す。　注２．全回答のうち１名　未回答

設問④　サッカーの楽しさや喜びを味わうことのできるのはどんなときですか。（複数回答可）



設問⑤　自身の知識・技能や、思考力・判断力・表現力を高めるために有効だと思う学習方法（フィードバックの工夫）は、どのようなことですか。（複数回答可）



(ｶ) 考察

設問①の結果から、サッカーへの関わり方に、学級内で差異があることが分かる。また、設問②・③より、技能への自信のなさ、不安感が強い学級であることがわかる。

設問④の結果から、技能を習得すること、仲間と学習を進めていくこと、仲間と協力してゲームに挑戦することに、楽しさや喜びを感じる生徒が多くいることがわかる。

設問⑤の結果から、学習の中で仲間とよりよく関わることから効果的な学習を進めている生徒が多くいること、また教師のアドバイスも適切な要素であることがわかる。

以上のことから、技能の向上を指導の中心としながら、また仲間との関わりを充実させることで、運動の楽しさや喜びを味わうことができると考える。また、生涯にわたりスポーツに親しむ資質・能力を養うことができるよう、以下に取り組む。

- 技能の細分化を徹底し、身体操作がしやすいような指導を進める。
- 仲間と教え合い、伝え合い、学び合う活動時間を充実させる。
- 生徒が効果的な学習を進められるよう、教師が適切に生徒へのフィードバックを行う。

(3) 教材観

小学校第３学年及び第４学年でゴール型ゲーム、第５学年及び第６学年でゴール型を学習し、基本となる動き（ボール操作と空間動作）を身に付けるとともに、その楽しさに触れている。

また、中学校第１学年及び第２学年では、基本的な技能の習得や、仲間と連携した動きでゲームを展開することを学習してきた。

高等学校では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることなどを目指している。

実態調査から、サッカーが得意でないと感じている生徒が 18 人（51%）であることが分かる。そこで本単元ではサッカーの楽しさを味わうことができるように、正確なボール操作、ボールを持たないときの動き方等の技能の習得を基本とする。ゲーム形式の活動においては、その技能を駆使し、仲間と協力することの喜びを味わうことができるよう指導を展開する。

一つ一つの動作に意識を向けることができるよう技能の細分化を図り、学習を進める。動作を分解したり、ＩＣＴ機器を活用して自分の動きを客観視したりすることで、自分の技能課題を明確にし、「何となく行っている」動作を解消する。自信をもって運動できる自分の型（プレイ）を探究していく。また、仲間やチームで活動する時間を十分に設定し、仲間と協力し、教え合い、課題を見付け、課題解決に向けた取組を行うなど、他者と関わって学んでいくことができるよう授業を展開していく。

５　年間指導計画における位置付け

(1) 第３学年　年間指導計画

４月	５月	６月	７月	８・９月	10 月
体つくり運動 球技	陸上競技 健康と環境	球技 健康と環境	球技 健康と環境	水泳 健康な生活と病気の予防	球技 健康な生活と病気の予防
11 月	12 月	１月	２月	３月	
球技 健康な生活と病気の予防	陸上競技 体育理論	ダンス	球技	球技	

(2) 教材の系統（ボール運動系）　　【参考：小・中・高等学校学習指導要領解説　体育・保健体育編】

	小学校 第１学年及び第２学年	小学校 第３学年及び第４学年	小学校 第５学年及び第６学年	中学校 第１学年及び第２学年	中学校３学年 高校入学年次	高校 その次の年次以降
知識及び技能	○　運動遊びの楽しさに触れる。 ○　行い方を知る。 ○　易しいゲームをする。 ※　ボールゲーム ・　簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをする。 ※　鬼遊び ・　一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどをする。	○　運動の楽しさや喜びに触れる。 ○　行い方を知る。 ○　易しいゲームをする。 ※　ゴール型ゲーム ・基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをする。 ※　ネット型ゲーム ・　基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをする。 ※　ベースボール型ゲーム ・　蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをする。	○　運動の楽しさや喜びを味わう。 ○　行い方を理解する。 ○　技能を身に付け、簡易化されたゲームをする。 ※　ゴール型 ・　ボール操作とボールを持たない時の動きよって、簡易化されたゲームをする。 ※　ネット型 ・　個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをする。 ※　ベースボール型 ・　ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをする。	○　勝敗を競う楽しさや喜びを味わう。 ○　球技の特性や成り立ち、技術に関連して高まる体力などを理解する。 ○　基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開する。 ※　ゴール型 ・　ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする。 ※　ネット型 ・　ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 ※　ベースボール型 ・　基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をする。	○　勝敗を競う楽しさや喜びを味わう。 ○　技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する。 ○　作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ※　ゴール型 ・　安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をする。 ※　ネット型 ・　役割に応じたボール操作と安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 ※　ベースボール型 ・　安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をする。	○　勝敗を競ったりチームや事故の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。 ○　技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 ○　作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ※　ゴール型 ・　状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をする。 ※　ネット型 ・　状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防をする。 ※　ベースボール型 ・　状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をする。
思考力、判断力表現力等	簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える。	規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える。	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な書き欠に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える。
学びに向かう力、人間性等	・　運動遊びに進んで取り組む。 ・　規則を守り誰とでも仲よく運動する。 ・　勝敗を受け入れる。 ・　場や用具の安全に気をつける。	・　運動を進んで取り組む。 ・　規則を守り誰とでも仲よく運動する。 ・　勝敗を受け入れる。 ・　友達の考えを認める。 ・　場や用具の安全に気をつける。	・　運動に積極的に取り組む。 ・　ルールを守り助け合って運動をする。 ・　勝敗を受け入れる。 ・　仲間の考えや取組を認める。 ・　場や用具の安全に気を配る。	・　球技に積極的に取り組む。 ・　フェアなプレイを守ろうとする。 ・　作戦などについての話合いに参加しようとする。 ・　一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする。 ・仲間の学習を援助しようとする。 ・　健康・安全に気を配る。	・　球技に自主的に取り組む。 ・　フェアなプレイを大切にしようとする。 ・　作戦などについての話合いに貢献しようとする。 ・　一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。 ・　互いに助け合い教え会おうとする。 ・　健康・安全を確保する。	・　球技に主体的に取り組む。 ・　フェアなプレイを大切にしようとする。 ・　合意形成に貢献しようとする。 ・　一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。 ・　互いに助け合い高め合おうとする。 ・　健康・安全を確保する。

６　単元の指導計画と評価計画（全 10 時間）

時		第１時	第２時	第３時	第４時	第５時	第6時（本時）	第７時	第８時	第９時	第 10 時
目標		・　健康・安全を確保できる。	・　サッカーで用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントを理解している。 ・　味方が操作しやすいパスを送ることができる。 ・　互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合うことができる。			・　パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。 ・　自己や仲間、チームの技術的な課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。			・　パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。 ・　球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 ・　作戦などについての話合いに貢献することができる。		
学習の流れ	0	○　出欠確認、挨拶　○　ウォームアップ（ストレッチ）・（主運動につなげる活動）　○　本時のねらい（目標）の説明									
	10	○　オリエンテーション ・　学習目標 ・　成り立ち ・　ルール ・　学習シートの確認	○　４対１　鳥かごボールキープゲーム 【練習内容】 ・　攻撃側はパスを回し守備者に奪われないようにボールを保持する。 ・　時間（30～60 秒）または攻撃側がボールを奪われたら、守備者を交代する。 【生徒の実態に応じた工夫】 △　パスがうまく回らないグループ ⇒　コートを大きくする ⇒　攻撃側の人数を増やす（４人→５人） ◎　パスが上手に回るグループ ⇒　守備者を増やす（１人→２人）			○　３対３　ゾーンゴールゲーム 【練習内容】 ・　攻撃側は、ゴールゾーンへボールを運び、ゾーン内でボールを（足の裏で）止めると得点。 【生徒の実態に応じた工夫】 △　なかなか得点が入らない場合 ⇒　ゴールマン（ゴールゾーン内でのみプレイできる）をいれ、４対４で行う。 ⇒　攻撃側をアウトナンバー（数的優位）にして時間で攻守を入れ替える。（４対３）			○　チーム活動 【練習内容】 ・　課題確認と目標の設定 ・　課題解決のための選択練習 →　基本技能に焦点をおいた練習 →　チーム戦術に焦点をおいた練習		
	20								○　成果確認のゲーム①縦長コート ・　４対４または５対５		
	30	○　ボールに慣れる運動 ・　ドリブル ・　パス ・　トラップ							○　チームミーティング		
	40	○　試しのゲーム ・　５対５	○　課題発見・確認のゲーム（ハーフコート） ・　２対１ ・　３対１から２対１			○　課題発見・確認のゲーム ・　４対３・４ゴールゲーム ・　４対４・４ゴールゲーム			○　成果確認のゲーム②縦長コート ・　４対４または５対５		
	50	○　片付け　○　クールダウン　○　学習のまとめ（振り返り）　○　評価と課題及び次時の説明　○　挨拶									
評価規準（評価方法）	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	ア		①（学習シート）	②（観察）	②（観察）			③（観察）	③（観察）	③（観察）	
	イ					①（学習シート）	①（学習シート）	①（学習シート）			②（学習シート）
	ウ	③（観察）	②（観察）	②（観察）	②（観察）				①（観察・学習シート）	①（観察・学習シート）	

7　指導に当たって

令和６年度　東京教師道場　体育・保健体育中学校第３班　第３期班テーマ「できていく楽しさや喜びを味わい、学び続ける生徒の育成～目標達成のための多様なフィードバックの工夫～」を実現するため、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた資質・能力をバランスよく育成することができるよう指導していく。

また、本テーマに迫り、指導の個別化、学習の個性化及び協働的な学びの充実を図ることができるよう、以下の手だてを講じる。

(1) 学習過程・教材開発の工夫

ア　目標の明確化と活動を選択し効果的な学び方を理解する指導の工夫

・　毎時間本時の目標や課題を共有し、グループでの教え合い活動など対話的な学びを通して、技能の向上や課題の解決ができるようにする。

・　単元前半で各技能の練習方法と目的を明確に示すことで、個人やグループの課題に適した練習内容や方法を選択して学習に取り組むことができるようにする。

イ　グループ編成の工夫

・　技能習熟度や生徒同士の関係を配慮したグループを編成することで、技術面・戦術面の話合いに生徒一人一人が参画し、協働的な学びが活発に行われるようにする。

ウ　学びのプロセスを大切にする資料や学習シートの活用

・　見通しをもって学ぶために、学習のねらいを学習シートやホワイトボードに明確に記す。

・　学習シートの記入から、学びの積み重ねを視覚化し、思考を深めることができるようにする。

エ　理解を深めるＩＣＴ機器の活用

・　模範動画を提示・共有し、技能の要点をつかみやすくすることで、実践につなげることができるようにする。

(2) 学習指導の工夫

ア　基本的な技能を身につけるための工夫

・　技能の細分化を徹底し、基礎技能の確実な習得につなげる。

・　仲間との教え合い学び合いの時間を確保し、教師のティーチング・コーチング・ファシリテートの実践により、効果的なフィードバックが継続して行われるようにする。

イ　思考力を高め、協働的な学びを活性化するための工夫

・　ＩＣＴ機器を活用し、動きの分析を図り、自分や仲間の課題を適切に捉えることができるようにする。

・　戦術・作戦を考える楽しさを味わうことができるよう、グループでの検討の時間を確保する。

ウ　ルールの工夫

・　生徒の実態に即したルールを設定する。全ての生徒が意欲的に活動できる環境を整える。

(3) 生涯にわたる学びの促進

ア　見方・考え方を働かせた学びを促す指導の工夫

・　用具の準備・片付け、審判、動きの分析、戦術・作戦等の話合い活動等を通して、スポーツの魅力や価値、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連させた学びを深めていく。

イ　ウェルビーイングを踏まえた授業づくり

・　運動を通して、自己の生活を豊かにするなど、生きがいを見出すことができることや、学びに向かう力、人間性等はよりよい社会づくりに生かせることといった視点で授業づくりを行う。

8　本時（全 10 時間中の第６時）

(1) 本時の目標

自己や仲間、チームの技術的な課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。

(2) 本時の展開

	学習内容　・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入（12分）	○　出欠確認、挨拶 ○　ウォームアップ ・　ストレッチ ・　主運動につなげる活動 ・　しっぽとり鬼ごっこ ・　パス＆コントロール ・　ポストシュート ○　本時の確認 本時の目標（ねらい）：　自分やチームの課題解決に有効な練習方法について話し合おう！	・　けがにつながらないよう、しっかりと体をほぐすように伝える。 ・　ボール操作のポイントを確認しながら生徒の様子を観察し、適宜アドバイスを行う。	
展開（30）分	○　〈３対３ゾーンゴールゲーム〉 ・　攻撃側は、ゴールゾーンへボールを運び、ゾーン内でボールを（足の裏で）止めると得点。 ・　４分×２ゲーム ○　課題発見・確認のゲーム 〈４対４　４ゴールゲーム〉 ・　攻撃側は敵陣いずれかのゴールをねらう。 ・　守備側は左右２つのゴールを、バランスを見ながら守る。 ・　５分×３ゲーム	【生徒の実態に応じた工夫】 △　なかなか得点が入らない場合 ⇒　ゴールマンを加えて行う。 ⇒　フリーマンを加えて、攻撃側をアウトナンバーにする。 ⇒　時間で攻守の交代を行う。 ・　活動がうまくいっていないグループには適切に介入し、課題発見や解決の方策のヒントを伝える。 ・　ゲームに出ない生徒には、空いているスペースや、仲間の位置を伝えるように促す。	
まとめ（８）分	○　片付け ○　クールダウン ○　学習のまとめ（振り返り） ○　評価と課題　次時の予告 ○　健康観察・挨拶	・　ワークシートには、個人及びチームの課題と次回の取り組み方について考えて書くよう確認する。	イ－①（学習シート）

(3) 授業観察の視点

ア　班のテーマの実現に向けた有効な授業展開・授業内容となっていたか。

イ　本時の目標を達成させるための手だては充実していたか。

【参考・引用文献】

○　『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編』文部科学省（平成 29 年７月）

○　『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校保健体育』
文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター（令和２年６月）

○　『サッカー指導の教科書』東洋館出版社（令和２年 12 月）